

## 事業の背景・目的

- ・本県の但馬地域においては「イヌワシ」の2ペア（扇ノ山&美方）が確認されているが、現在、絶滅の危機にある。
- ・両ペアの生息地が近い上山高原では「上山高原エコミュージアム運営協議会」を設立し、地元住民を中心としてエサ場となる草原の復活、維持管理に力を注いできた結果、美方ペアが令和2年に16年ぶりにヒナが誕生したが、餌不足などから落鳥した。
- ・この出来事を契機にイヌワシ保全の取り組みを強化し、令和3年8月に環境省が策定した「イヌワシ生息地拡大・改善に向けた全体目標」の達成も見据えて、イヌワシの命をつなぐ「但馬イヌワシ・エイドプロジェクト」を展開する。

## 事業の内容

### 事業① 生息環境改善事業

#### ノウサギの跳ねる森づくり

- ・ススキ草原林縁部の樹木を伐採し、数年後の冬場の餌場の創出を目指した。

#### イヌワシの狩場創出

- ・人工林の間伐及びササ等の手刈りによる狩場を創出した。

### 事業② モニタリング

#### イヌワシ

- ・ヒナ誕生に伴い、親鳥の行動が頻繁に観察された。ヒナ死亡後もペアでの飛行、巣材を運ぶ姿等が引き続き確認された。

#### ノウサギ

- ・作業効果測定のため、作業前後でのノウサギの糞粒調査を実施した。



## 得られた成果

- ・R3年度に策定した計画に基づき「ノウサギの跳ねる森づくり」及び「イヌワシの狩場創出」合わせて約0.4haの樹木の伐採及び約1.4haのササ等の手刈りを実施した。
- ・今年度の作業はイヌワシのヒナへの影響及びシカの食害対策等から秋に作業を実施したため、ノウサギやそれに伴うイヌワシの反応については、R5年度以降に随時調査し、適宜計画を更新し、イヌワシが一年を通じて安定してエサを捕獲できる豊かな生態系の整備を推進する。
- ・今年度、扇ノ山の個体が繁殖成功まであと一歩のところまで来ていたが、営巣地前の樹木が巣立ちの妨げになり、繁殖が失敗したと考えられることから、障害となったと思われる樹木の枝打ちを実施した。これによりR5年度以降の繁殖成功が期待される。